



笹小だより No. 4

令和2年7月1日
横浜市立笹野台小学校

「心」

副校長 山中 卓

新型コロナウイルス特措法に基づく緊急事態宣言が5/25(月)に解除され、3月から臨時休校が続いた学校が6/1(月)に再開されました。新学期をこのような混乱状態で迎えたことは、子どもも大人も、これまで体験したことのない事態でした。

そして、感染拡大防止の措置を徹底した上で、分散登校及び短時間授業等、段階を踏んだ教育活動が行われ、1カ月が経ちました。まだまだ、多くの子どもや大人が、世の中に対する不安や悲しみを抱えていることだと思います。

そんな中、1年生は小学校生活に少しずつ慣れて、毎日元気に過ごしている様子が見え始めました。そして、進級した各学年の子どもたちも、3カ月にわたった臨時休校中の思いを発散するかのような雰囲気でも生活し、少しずつですが、それぞれの目標に向かって走り始めたところです。

この1カ月は、職員一同、このような前例のない状況だからこそ、前例のない対応を試みてきました。

感染リスクを最小限に抑えつつ、子どもの学びを保障するために、「横浜市立学校の教育活動の再開に関するガイドライン」を基に、試行錯誤しながら、学校なりの「新しい生活様式」に取り組んできました。

従来であれば、「当たり前」の生活を当たり前と捉え、子どもたちとの学校生活を作り上げていく時間でありましたが、「その当たり前を見直すきっかけ」として捉え、児童や職員の健康管理、教室や教材等の環境整備等、様々な工夫を重ねているところです。

今後は、より一層、子どもたちの「心」に迫っていければと考えています。

不安や恐れ、悲しみ等のストレスになる原因を受容する「心のケア」や、自己表現や仲間意識を育む「人との関わりづくり」に取り組み、今社会で問題となっている「いじめ、差別や偏見を生まない風土づくり」になげられればと思います。

相手に受け入れてもらえることを実感したり、みんなと一体感を感じる体験を重ねたりすること等を通して、温かな雰囲気にも包まれた風土づくりを、子どもたちとともに丁寧に進めていきます。

「だれもが」「安心して」「豊かに」生活できる学級・学校づくりを実現できるよう、今後とも、保護者の皆様、地域の皆様にも、ご理解とご支援をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

少し前になりますが、新聞で「いいな!」と思った記事がありましたので紹介します。

絵本作家の五味太郎さん

新型コロナウイルスを巡り、二転三転する状況に、すっかり疲れている親子に対して…

「心」っていう漢字って、パラパラしていいと思わない?

先人の感性はキュートだな。

「心」は乱れて当たり前。

常に揺れ動いて変わる。

不安定だからこそよく考える。

もっと言えば、不安とか不安定こそが、生きてるってことじゃないかな。

朝日新聞(5/5付)抜粋